



平成29年6月15日号

文教大学附属小学校

研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学附属小学校型 アクティブラーニング

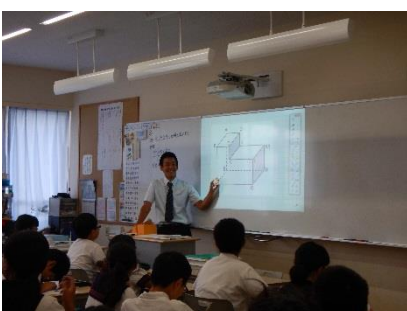
学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第一回目の校内研究を行った。今年度の研究主題は「学ぶことを楽しむ！～文教大学附属小学校型アクティブラーニング学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～についてだ。今年度重視する点は、「問いの焦点化」と「思考の可視化」だ。

第一回目は6月15日、2年1組の算数、『水のかさをはかろう』を河野教諭が、6年1組の算数、『角柱と円柱の体積を考えよう』を宮崎教諭が研究授業を行った。



2年2組は「任意単位の限界に気づいて、普遍単位の必要性に気づく」というねらいに沿って授業が展開された。同じ容量の水をカップに移し変えて、ホワイトボードに共有し、(思考の可視化)何杯分かを測り、世界共通単位の必要性(問いの焦点化)を考えるという授業を行った。



6年1組は「複合的な立体の体積も底面積×高さで求められることを理解する」というねらいに沿って展開された。「体積を求める」(問いの焦点化)という問いから始まり、子ども達は2つの図形の体積を様々な方法で求めた。その中で、宮崎教諭は子ども達に補助線を引かせたり、色を塗らせるよう指示していた。(思考の可視化)

協議会では、学芸大学附属世田谷小学校の協議会を参考に、グループを回る形式を初めて行った。各グループより、河野教諭へは、「もっと測ったものに対して皆で共有した方が良かった。」や、「最初に引いた線は必要なかった。」などの課題が出された。宮崎教諭へは、「1問目から2問目への問題では果たして底面積を使うことをどれだけの子どもが意識していたか。」や、「手が止まっていた子どもへはヒントカードなどの手立てがあった方が良かった。」などの課題が出された。



講師の先生は、学芸大学附属世田谷小学校の永山先生をお招きした。永山先生は、河野教諭へは、「子ども達が自分で課題を見つけることの大切さ」や、宮崎教諭へは「答えから皆で話し合い、それを振り返る事や、柱体と見ることの大切さ」などのご指導をいただいた。

新しいテーマとなり、初めての協議会でいった第一回目の校内研究。我々教諭も、試行錯誤の中、何より「子どもたちのためにより良い授業を」という強い想いで研究授業を行っている。「自ら問い続ける子どもを育てる授業」を目指して、今回学んだことを、これから子ども達と向き合う中で、活かしていきたい。